

経営体の概要

- ・所在地：愛知県安城市・碧南市・刈谷市・高浜市
- ・経営体名：JAあいち中央いちじく部会
- ・栽培作物・作付面積：露地いちじく・24.3ha
- ・部会員数：138名（令和6年1月現在）

導入技術

- いちじく有機配合822（JAあいち経済連くみあい肥料工場）
 - ・基肥ベースで、リン酸・カリの減肥率 70%。
 - ・年間施肥ベースで、リン酸・カリの減肥率 30%・44%
 - ・JAあいち経済連と県農業総合試験場が共同で開発
 - ・農業総合試験場と普及指導センターによる現地実証試験により有効性の確認、商品化

L型肥料を利用した場合の施肥体系の一例

(単位：kg/10a)

			施 肥 量	L型＋追肥体系 (N-P-K)	通常施肥体系 (N-P-K)
3月上旬	基肥	いちじく有機配合822	120	9.6-2.4-2.4	—
		いちじく有機配合655	160	—	9.6-8.0-8.0
5月下旬	追肥①	粒状固形30号	20	2.0-2.0-2.0	2.0-2.0-2.0
6月中旬	追肥②	硫酸加里	10	—	0.0-0.0-5.0
6月中旬 ～10月中旬	追肥③ ～追肥⑨	粒状固形30号	10×7回	7.0-7.0-7.0	7.0-7.0-7.0
10月下旬	礼肥	粒状固形30号	20	2.0-2.0-2.0	2.0-2.0-2.0
			計	20.6-13.4-13.4	20.6-19.0-24.0
			リン酸削減率	30.0%	
			加里削減率	44.0%	

導入経緯

- 肥料価格が高騰する中、県内のイチジク圃場の多くでリン酸・カリが過剰となっている。
- それを解消するため、リン酸・カリ成分で30%以上の削減、投入施肥量40kg/10a削減できる基肥肥料を開発し、さらに追肥技術を確立することで、減化学肥料・低コストを実現した。

取組の特徴・効果

- リン酸・カリを削減したL型肥料を導入することで、年間施肥ベースでリン酸30%、カリ44%の削減ができた。
- イチジク樹の生育、果実品質への悪影響がないことが確認できた。
- 基肥の投入量：40kg/10a削減できた。
- 経 費：10,000円程度/10a削減できた。
- カリの集積したほ場においては6月中下旬の硫酸カリの追肥施用も無くすことができた。
- JAあいち中央のみでなく、近隣の3JA（JA西三河、JAあいち三河、JAあいち豊田）への導入も進んだ。